

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 幼児との触れ合い体験を振り返り、製作した遊び道具の課題を見付け、遊び道具をよりよくするための工夫ができる。また、実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりできる。

思考力・表現力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 題材名 幼児の発達と遊び
- ◇ 本時の目標 幼児との触れ合い体験を振り返り、遊び道具の製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりすることを通して、製作した遊び道具と遊び方を評価し、幼児の実態に即して工夫することができる。
- ◇ 学習の流れ(9時間目/全12時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)															
1 「前時の学習内容」と「本時のめあて」を確認する。	◇ 幼児との触れ合い体験の日のビデオや写真を活用したり、感想を発表させたりすることで、体験したことを想起させる。																
2 回目の幼児との触れ合い体験に向けて、遊び道具と遊び方をより良いものへ改善しよう！																	
2 体験したことを整理し考察する。	<p>◇ 遊び道具について、幼稚園教諭の肯定的な評価を紹介し、意欲を喚起する。</p> <p>◇ 遊び道具と遊び方が幼児の発達段階に合ったものになっていたか振り返らせ、改善策を考えさせる。</p> <p>◇ これまで学習したことを想起させ、遊び道具の製作に必要な観点について確認させる。</p> <p>◆ 観点を教科書やワークシートの該当部分で確認する。</p> <p>◇ 始めに成果を記入させる。次にワークシートの課題の欄に背景となる幼児の様子を含めて記入するように伝える。</p> <p>◆ 観点をワークシートの一部と生徒の記入例 <対象児：5歳></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>遊び道具</th> <th>遊び方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題</td> <td>フリスビーに好きな絵をかきたいと言った幼児がいた。</td> <td>一人だけで遊んでいて、寂しそうな幼児がいた。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>次回は、材料を持って行き、一緒に作ってみたい。</td> <td>友だちと関わることができる方法を考える。</td> </tr> <tr> <td>観点</td> <td>幼児の興味・関心</td> <td>社会性</td> </tr> <tr> <td>アドバイス</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ 記入することが難しい生徒には、体験の場面を想起させ困ったことや幼児の様子を思い出させる声かけをする。また、生徒の体験を基に、指導者の視点で改善をした方がよい点について、生徒の意見を引き出しながら助言する。</p> <p>◇ 意見交流は改善策を考えることに重点を置くように留意させる。また、付箋を活用して、友だちにアドバイスをさせる。</p> <p>◇ 交流で出た意見を踏まえさせ、次回の体験に向けての改善策を図や言葉でまとめさせる。必要に応じて図等を示しながらグループのメンバーに紹介させる。</p>		遊び道具	遊び方	課題	フリスビーに好きな絵をかきたいと言った幼児がいた。	一人だけで遊んでいて、寂しそうな幼児がいた。	改善策	次回は、材料を持って行き、一緒に作ってみたい。	友だちと関わることができる方法を考える。	観点	幼児の興味・関心	社会性	アドバイス			<p>体験を振り返る時の項目は、遊び道具と遊び方の改善に向けて必要なことに留意しましょう。</p> <p>★ 体験後、感想を書いて終わるだけでなく、目的をもって体験を振り返り評価することで、体験の質を高め、さらに新たな課題を生み出すことができます。</p> <p>課題や改善の内容が分かる記述欄や友だちからのアドバイスを貼る欄等を設け、何を根拠に解決したのか、思考の流れが分かるようにワークシートを工夫しましょう。</p> <p>★ 生徒が、これまで学んだ知識や経験を基に課題を解決する力を付けることができます。</p> <p>・ 幼児の遊び道具の製作や幼児と触れ合う活動の成果と課題について、まとめたり発表したりしている。また、次の実践の計画を自分なりに工夫している。〔生活を工夫し創造する能力〕(ワークシート、行動観察)</p>
	遊び道具	遊び方															
課題	フリスビーに好きな絵をかきたいと言った幼児がいた。	一人だけで遊んでいて、寂しそうな幼児がいた。															
改善策	次回は、材料を持って行き、一緒に作ってみたい。	友だちと関わることができる方法を考える。															
観点	幼児の興味・関心	社会性															
アドバイス																	
3 グループで意見交流する。																	
① 成果と課題及び改善策を発表する。																	
② 質問や意見を交流し、友だちにアドバイスをする。																	
4 学習のまとめをする。																	
・ 改善策を練り直し、グループ内で紹介する。																	
<p>生徒のまとめ例</p> <p>【遊び道具】◇フリスビーは廃品を利用して作った。次は、家の中で不用になったものを材料として持っていく、絵をかく等して、身近な物を利用して遊びを工夫することができることや友達と一緒に作ることの喜びや楽しさ伝える。(友達の意見から新たに加わったこと) フリスビーが大きすぎて持ちにくい幼児がいたので、大・中・小と大きさを変えてつくり手の大きさに合わせて選べるようにする。</p> <p>【遊び方】◇よく体を動かして遊んでいたのは運動機能の発達に良かったが、5歳児なので友だちと関わり合う力も身に付けていきたい。そのために、投げたフリスビーを受け止めたり、的に入れたりするなどの遊びのルールをつくる。(友達の意見から新たに加わったこと) 幼児が安全面を考えてフリスビー投げていなかったため、友だちが怪我をしないようにするために、投げるときの注意点を伝える。</p>																	
5 本時を振り返り、次時につなげる。	◇ 本時の改善策を基に、遊び道具の改善するために必要な準備等を考えさせる。改善は家庭で実施し、次時は改善した遊び道具を持参して、2回目の触れ合い体験をすることを伝える。																

